

# 桐が谷通信

CHUBU GAKUIN UNIVERSITY  
CHUBU GAKUIN COLLEGE

第 6 5 号 2 0 2 2 年 6 月 2 0 日

発行 中部学院大学 宗教委員会 〒501-3993  
中部学院大学短期大学部 岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地 TEL (0575) 24-2211

## 学長就任に寄せて

江馬 諭 (中部学院大学 学長)



学長をお預りしましたが、日に日に責任の重さを痛感しているところです。本学は、1997年に中部学院大学が設置され、人間福祉学部が開設されました。その後、子ども学部、リハビリテーション学部、経営学部が相次いで開設されるとともに、学部・学科の改組や拡充によって看護学科やスポーツ健康科学部を新設してきました。現在、4学部、5学科の福祉系総合大学となっています。年数の長さは異なりますが、前半を本学における草創期、後半を発展期と捉えております。

1991年に行われた大学設置基準の大綱化とともに、設置後の教育に関する取組のフォローアップが求められるようになってきました。その一つがいわゆる外部組織による認証評価です。本学は2024年に大学基準協会の評価を受ける予定です。近年、教育に関わる3つの方針に基づいた人材育成が求められるとともに、客観的な指標による教育成果の把握が求められています。また、教育に関わる内部質保証システムの確立や教学マネジメントの構築が求められています。とりわけ教育の基本組織である学部・学科の取組とその根拠資料の保存が大切になってきます。これらについては堅実に対応したいと存じます。

一方、2019年、中国の武漢で発見された新型コロナウイルス感染症は瞬く間に世界に広がり、

いわゆるパンデミックとなりました。大学の教育・研究も大きな影響を受けております。さらに、2022年2月24日、ロシアによるウクライナ侵攻が始まりました。これらによって、人々の行動様式、社会の価値観、物流と経済が大きく影響を受けております。さらに、少子化の傾向はますます強くなり、大学運営は厳しい局面を迎えることとなります。

お話は変わりますが、どなたも小学校や中学校を卒業されたと思います。学校という校舎があって、教師と児童・生徒が集うこの空間は、かけがえのない学び舎です。子どもたちの遊びに夢中になり、その中で様々な工夫した経験は成長後の観察力や思考力に大きく影響すると伺っています。小学校や中学校を卒業後、社会人となったあるときに、ふと小学校や中学校での学びを振り返ると、学び舎という言葉が懐かしさとともに実感として思い出されます。

一方で、大学も校舎があり、教員と学生が集うこの空間は学び舎です。しかし、小学校や中学校と大学で大きく異なる点が二つあります。一つは、義務教育ではありませんので、学納金が必要です。二つ目は、小学校や中学校で使われている検定を受けた教科書は大学にはありません。教授陣が長年の努力で得られた研究の成果である知見を授業で伝えます。それゆえ、大学の授業は講義と呼ばれています。この知見は大学の知的財産であり、大学の教育はこの知的財産の礎の上に成り立っています。

このような状況下ではありますが、卒業時の評価である教育成果とともに、各方面での卒業生の活躍、すなわち人材育成に対する地域社会からの評価が最も大切な成果（Out Comes）と捉え、

常にアンテナを張ってステークホルダーのご意見を誠実にお聞きする所存です。これらを教育研究に反映しながら、大学運営に努めていく所存です。皆様方のご協力とご支援をお願いいたします。

## キリスト教学校に学ぶ

森 包 義（岐阜済美学院 顧問）

私自身が、クリスチャンとしての歩みを始めるきっかけとなったこととお話したいと思います。大学生になった時のことですが、カトリックのキリスト教学校でしたので、入学式の後大学内の教会で礼拝が持たれました。私自身クリスチャンではないのですが、興味本位で何となく参加してみました。荘厳な感じで、訳もなく感動し圧倒されたのを覚えています。それからは、クリスマスの礼拝に参加する程度でしかありませんでした。キリスト教との初めての接点でしたが、その後社会人になってからは、キリスト教とは全く縁のない生活を送っていました。

その後結婚し、子供が生まれ、成長し、幼稚園に入る年になった時に、たまたま一番近い幼稚園が、キリスト教の幼稚園でした。歩いて通えるので、通わせることになりました。幼稚園内の教会へも、友達などに誘われて、子供が教会学校に通うようになり、一緒に教会学校の後の礼拝にも時々出席するようになりました。大学の時はキリスト教というものを全く知らずに過ごしていましたが、今思うと、教会の礼拝に、何の躊躇もなく出席できるようになったのは、大学時代の経験が大きくものを言っていると思います。誰でも教会に入って礼拝に出席していいんだということなど、キリスト教というのは難しいものだというハードルを下げることができました。

そんな折、私自身大きな人生最大の転機を迎えることになりました。悩み、苦しむときに、身近にあった教会（幼稚園）に足が向き、礼拝に出席し、園長を兼務されていた牧師の語る御言葉を聞

き、幼稚園の園長や教員である先生方と話をすることが、大きな支えになっていました。生きて生活していく事に真剣に悩み考えていた私に、一人ではないんだよと傍らに寄り添っていただき、私の生きる力となってくださいました。こうした機会を与えて頂いた教会、幼稚園に感謝すると同時に、自分自身が神様に導かれていることに気づき感謝しました。その後、岐阜に転居し、新しい仕事と生活が始まり、環境の変化からしばらく教会から足が遠のいていましたが、一年半後、やはり神様に導かれ、現在の華陽教会に通うようになり、洗礼を受けクリスチャンとして歩むようになりました。

もう一つ、今まで何度も職種が変わってきた私が最も大切にしており、自分に言い聞かせると共に、皆に伝えてきた言葉があります。マザーテレサの言葉で、“どんなに小さなお仕事でも、その小さなお仕事に、大きな愛を込めて行いなさい。自分にふさわしい仕事を求めるよりも、与えられた仕事を果たす力、果たすに必要な力を与えてくださいと祈りなさい。”です。人生では色々な変化が起こります。そのたびに、このマザーテレサの言葉を思い浮かべ進んでいきたいと思います。キリスト教学校に学ぶことは、私も経験してきたように、もう既に神様に捕らえられているのです。キリスト教に接する事を通して、これから先新たな可能性、道筋を導き出してくれると思います。経験できることは最良の学びです。大切にしてください、一日も早く神様と出会えることを祈っています。

## 戴灯式の“ともしび”によせる想い

宮田 延子 (看護学科 教授)

私は家族や周囲に病人が多い早世家系に生まれた。母親の度重なる病気や手術、幾度にもわたる入退院を見て、医療職の働きは自然と視野に入っていた。消灯後の静まり返った病室の見廻り、厳しい病院の規律に叱られる父、家族には怖い看護師さん、看護とはこんなものか。しかし、病人である母親は医療職に絶対的な信頼を寄せ、治療にも絶えず前向きだった。そんな中、思春期から青年期にかけて健康で伸び伸び育った私こそ、人のために役立つ仕事「看護」につくのが義務と思うようになっていた。疾病予防活動を中心に市町村や県の保健師として働いてきた。看護教育に入ったのは死去した夫の遺言で、「教育は貴女の使命」と言われていたことがきっかけである。看護教育に入り今年で30年目を迎える。

本学はキリスト教精神に基づき100余年の歴史を持つ福祉系大学で、看護学科は開設されてから9年目となる。看護の礎を創ったナイチンゲールはキリスト教徒であり、近代看護教育の母とされている。クリミア戦争で戦った兵士の看護にあたり、兵舎病院の便所掃除から始め、衛生状態をよくして死亡率を一挙に低減させた。後に死者の大方は病院内の不衛生によるものだったと推測された。またナイチンゲールは夜回りを欠かさず、「ランプの貴婦人」とも「クリミアの天使」とも呼ばれた。『看護とは、新鮮な空気、陽光、暖かさ、清潔さ、静かさを適切に保ち、食事を適切に選択し管理すること、こういったことのすべてを患者の生命の消耗を最小にするよう整えること』  
—ナイチンゲール著 ナイチンゲール著作集 第2巻 病人の看護と健康を守る看護—としている。

また『看護は一つの芸術 (an art) であり、それを実際的かつ科学的な系統だった訓練を必要とする芸術』とし、看護教育の必要性を訴えた。

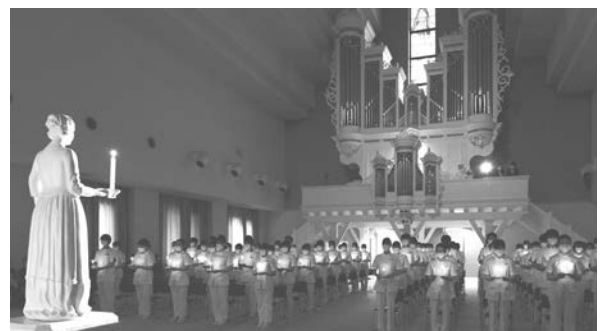
—ナイチンゲール著 ナイチンゲール著作集 第2巻 看護師の訓練と病人の看護—

本学科の看護教育の特色として、ナイチンゲール

精神を軸とした『戴灯式』を厳かに毎年举行している。看護学科3年生の本格的な病院実習が始まる時期に、「看護する心の灯」を絶やさないように初心を呼び起こし、看護の道に入ることの覚悟を確認する式典としている。本学ならではのキリスト教的環境の元、学内の多大な協力を得た、看護教育の機会としている。実際に病院ではこの灯を頼りに、夜間もたゆまない個々の観察に行ない、24時間の看護（みまもり）が行われている。ナイチンゲールは『看護については、神秘などまったく存在しない。よい看護とは、あるゆる病気に共通するこまごまとしたこと、およびひとりひとりの病人に固有のこまごまとしたことを観察する、ただ2つだけで成り立っている』  
—ナイチンゲール著 湯楨ます他訳 看護覚え書 現代社 2011—と表現している。

大学で看護を学ぶということは、看護を「論理的」に「科学的に」学ぶことである。「看護とは何か」「なぜ」「何のために」あらゆる人々に起こっている事象から、看護の必要性をとらえて、その中の法則を学び、体系的に理解し、ケアに生かすところにある。建学の精神である‘神を畏れることは知識のはじめである’は、看護の真髄を学び合う学生や教員の姿勢に生かされていると思うのである。

私の心にいつもあったのは、暗闇の中、足元を照らす「ともしび」であった。不安に怯え、眠れない夜を過ごす患者の心に届く灯でもある。長年にわたって看護教育の一端を担えた幸せを感じている日々である。



2022年度 宗教講演会

## 「自分自身を愛するために」

日本キリスト教団 芦屋浜教会 牧師 塚本潤一先生



日 時：7月4日(月) 11:00~12:15

(第2時限の講義は行いません。)

会 場：関キャンパス 11301 講義室

## ◆招きの言葉

皆さんこんにちは。私は大学一年生に「聖書」を教えているのですが、今年はいつもと様子が異なっており、とてもとまどっています。「聖書」の中心メッセージの一つに「自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。(レビ記19章18節)」があります。イエス・キリストもこの言葉を引用しているほど、大切な言葉です。

いつもならば、「自分自身を愛している」ことは前提で、そこからいかに「隣人」を愛するかということと一緒に考えていくのですが、今年はその前提となるべき「自分を愛せない」「自分を好きになれない」という学生の方が多いのです。毎週、講義の後にそのようなコメントが多く寄せられるのです。なぜだろうと考えてみて、コロナ渦によって失われた二年間が大きいのではないかと思ったりしました。一年生であれば、高校最後の二年間を多くの制限の中で過ごさなければならなかったでしょうし、三年生であれば、大学生活の最初から十分なキャンパスライフを送れなかったことでしょう。そのために、他者との関係の中で育まれていく「Self esteem (自尊心)」が確立されきっておられないのでしょうか。

そこで今回は、皆さんとご一緒に、「自分自身を愛し、自分自身を好きになる方法」を考えていきたいと思います。ぜひご一緒に「自分自身」を見つめ直していきましょう。

## ◆講師プロフィール

塚本潤一(つかもと・じゅんいち)。1958年兵庫県生まれ。大阪芸術大学芸術学部音楽学科、同志社大学神学部卒業、同大学院前期博士課程修了。日本基督教団北六甲教会、ウェスレー合同メソジスト教会(米国カリフォルニア州)、高崎教会牧師、頌栄保育学院宗教主事および頌栄短期大学准教授を経て、現在芦屋浜教会牧師。同志社女子大学嘱託講師、日本基督教団讃美歌委員、日本賛美歌学会会員。

『讃美歌21』『こどもさんびか 改訂版』の編纂協力者、『こどもさんびか 改訂版 CD』を編曲・監修、『Thuma Mina 世界のさんび』『こどもさんびか 改訂版 ガイド』『教会音楽ガイド』『Thuma Mina 世界のさんび2』『こどもさんびか略解』の共編著、『講座 日本のキリスト教芸術1 音楽』『キリスト教とともに学ぶ音楽』を共著、『こどもさんびかプレイヤー (iPhone アプリ)』を全面監修、『今さら人に聞けないキリスト教』の著者、また全国各地でキリスト教音楽講習会の講師をつとめている。